



著者プロフィール

岩田 奎 (いわた・けい)

一九九九年京都生。

「群青」所属。

二〇一五年、開成高校俳句部にて作句開始。

二〇一八年、第十回石田波郷新人賞。

二〇一九年、第六回俳人協会新鋭評論賞。

二〇二〇年、第六十六回角川俳句賞。

〈句集『膚』(はだえ)より転載〉

〈2022年12月19日時点〉

『膚』(自選15句)

岩田 奎

耳打のさうして洗ひ髪と知る  
まだ雪に気づかず起きてくる音か  
食べ終へて光の残る暮の秋  
しりとりは生者のあそび霧氷林  
蝙蝠のながれてゆけば犬が吠え  
もの食べてさびしくなれる扇かな  
栓抜けば七味こぼるる滝見かな  
運動会再び肉の塔興る  
木の奥をゆくよそさまの七五三  
花脊花折とつめたい杉をゆく  
枯園にてアーツと怒りはじめたる  
落椿の気持で踏みよ踏むからは  
靴篋の大きな力春の山  
立てて来しワイパー二本鏡割  
弱さうな新社員来る湊かな